

# 岐阜県中山間農業研究所ニュース

2017年度 第3号

今年も収穫の秋を迎え試験研究も後半となり、試験結果の取りまとめや成果検討会に向けた業務に励んでおります。

さて、本号では近年各地で栽培が進んでいるエゴマの安定多収技術、飛騨特産「宿儺かぼちゃ」の作型開発、そして「コシヒカリ」の極良食味米生産に関する研究について紹介します。今後も地域と共に歩む農業研究所として、生産者の皆さんや地域に役立つ技術の開発に向けて頑張って参ります。



本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56  
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751

中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1  
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116  
<http://www.k-agri.rd.pref.gifu.lg.jp/>

## 東濃地域のエゴマ産地化に向けて

県内中山間地域は伝統的なエゴマの産地であり、東濃地域も昨今のブームを背景として、生産の要望があります。

当所では栽培試験と、県内各地域への栽培方法の技術支援に取り組んでいます。栽培試験は、地域に適した品種や作期、栽培密度などを検討するとともに、摘心栽培の可能性や低コストな機械化栽培にも取り組んでいます。

昨年の研究でエゴマの子実は、基部の太い枝に多く着き、下部の太い枝ほど収量が多いことを明らかにしました。摘心栽培の狙いは、下部の枝をより太く充実させて増収を図るとともに、草丈を抑えることで台風による倒伏害を防ぐことにあります。



エゴマ機械収穫の試験

【支所 大江栄三】

## 「宿儻かぼちゃ」の作型開発

「宿儻かぼちゃ」は、その独特的な形状や良食味から、人気を博しています。当研究所では、仕立て法や貯蔵、出荷時期についての研究を行い、限られた面積のなかで、より高反収、良食味のかぼちゃを栽培するための成果を上げてきました。

昨年度より大学と連携し、「宿儻かぼちゃ」の機能性（体の調子を整える機能）に着目した研究を実施しており、新たな魅力の探索を行っています。今年度は、地域で栽培が行われている「慣行作型」に加え、定植時期を前進した「早期作型」と、後退させた「晚期作型」の栽培試験を行い、収量や食味、機能性成分をより増加させる作型の開発を行っています。

【本所 石橋裕也】



## 「コシヒカリ」極良食味米产地確立に向けて

来年の11月に高山市で「米・食味分析鑑定コンクール：国際大会」が開催されます。このコンクールでの入賞を目指して、本県各地で水稻の極良食味栽培が盛んに行われています。

本研究所では、作期後退により味度値向上が可能なことを明らかにしました。その結果を受けて、地域の関係機関（JA、市、農林事務所）と現地実証を行いました。その結果、慣行の作型に比べて味度値の高いお米を作ることができました。



食味分析の様子

【支所 服部哲也】

### 8月に試験研究中間検討会を開催しました！

毎年恒例の中間検討会を8月23日（中津川支所：写真左）、8月24日（本所：写真右）の両日に開催し、2日間で約180名の参加がありました。皆様方から頂いた多くのご意見やご提案は、今後の研究に活かして参ります。本当にありがとうございました。

